

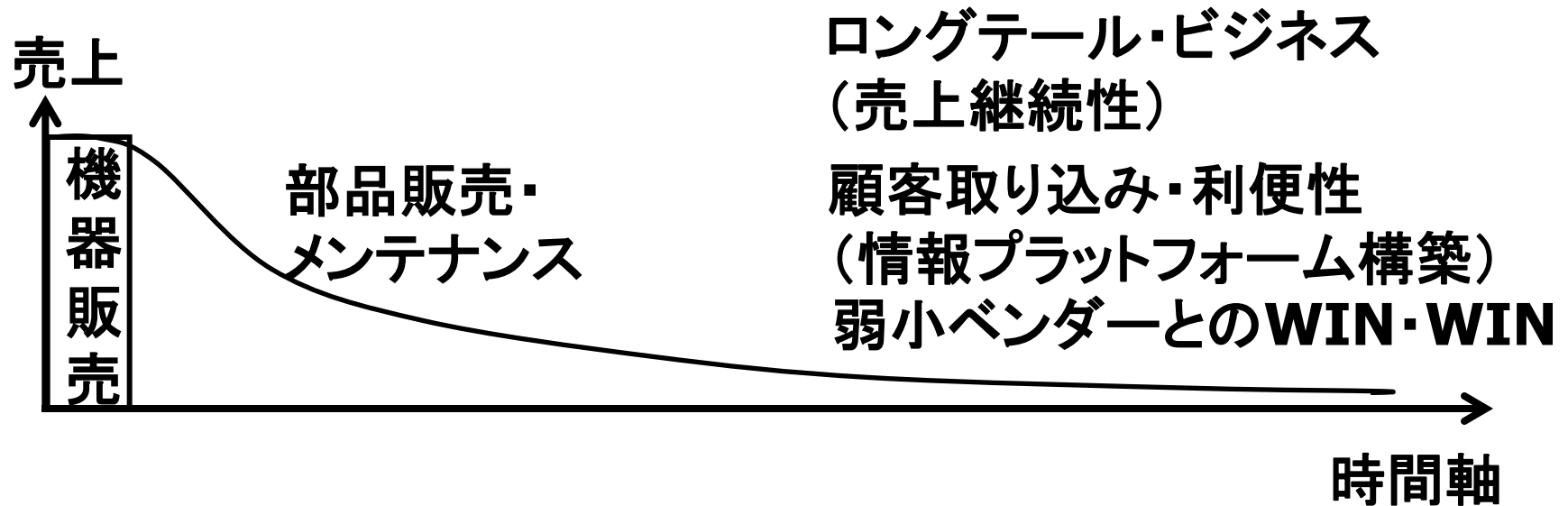
日本MOT学会

ものづくり価値革新研究会

研究企画案
2013.6.30

参考：(株)コマツにおけるビジネス・モデル革新

製造業からサービス業との合体モデルに



→ 日本の製造業の新しい勝ち方の提示

研究テーマ

日本の製造業の活性化を大目標として、

- ICT(ものづくりベンダーと顧客を繋ぐ映像情報ネットワーク)を駆使したワールドワイドなトレーサビリティ網の利活用による顧客価値創造と価値獲得
- 製品の実質的な長寿命化による地球にやさしい環境配慮型グリーンプロダクト化とそれらによる価値創造と価値獲得へのパラダイムシフト
- 製造業とサービス業の有機的結合や、「おもてなし」の心に代表される、日本人ならではの民族性を生かした、ビジネスモデルの構築と価値獲得、

の3点を中心とし、波及的な効果として、

- (4)産業連環の中で、中小企業も含めた日本の産業力の向上

も念頭におきながら、経済学・経営学・技術経営・情報工学など学際的な研究者が集結して、研究と議論を進める。

過去の活動実績

- 2009年7月に映像情報メディア学会アントレプレナー・エンジニアリング研究会の下部組織として今回の母体となる研究会が2年間の時限研究会として発足。経済学者、IT学者、経営学者など専門分野の異なる約10人の研究者が参加。
- 日本の製造業における製品コモディティ化を防ぐひとつの施策として、コマツ・モデルを中心課題として取り上げる。コマツ社の全面的支援を得る。(事務局設置、資金援助、取材見学など)
- 2年間活動し、研究成果は共著「アフターマーケット戦略:コモディティ化を防ぐコマツのソリューション・ビジネス」としてとして2012年1月に白桃書房より刊行された。



- **活動目的:**日本の製造業復活のため、「ものづくり価値革新」について、経済学、社会学、経営学、MOT(技術経営学)、経営工学、情報工学などを駆使して、仕組み、価値創造と価値獲得のメカニズム、今後の展開、市場規模などを調査・研究し、学術的な体系化を図るものとする。
- **活動期間:**3年程度の時限研究会とする。
- **研究懇談会開催:**年3~4回@芝浦工業大学芝浦キャンパスにて開催
- **アドバイザー:**大阪電気通信大学客員教授 加納剛太
- **研究会幹事:**芝浦工業大学教授 平野 真
- **参加資格:**日本MOT学会会員及び研究趣旨賛同者(産学協働)
- **参加費用:**無料、研究活動は、原則自己負担とするが、学会からの補助金、科研費を含む各種ファンドなどからの援助についても検討する
- **研究成果:**1年に1回、各種学会にて合同発表し、最終年には共著を出版
日本MOT学会誌(「技術と経済」)にも、適宜研究進捗を報告
- **活動形態:**日本MOT学会のみならず、映像情報メディア学会、研究・技術計画学会の中にも分科会的な下部組織をつくり連携して活動する。その他の社会科学系(国際ビジネス学会、経営品質学会、ベンチャー学会など)の学会にも同様の参加・協力の呼びかけを行う。

活動日程案

	2013.7~2014.6	2014.7~2015.6	2015.7~2016.6
大日程	研究懇談会開催  研究発表 	 	  出版 
企画案批准	企画委員会・総会報告承認 		
研究チーム編成	メンバー公募・チーム編成 		
研究プロジェクト	研究成果まとめ 		 
アドバイザー 評価会	研究方向性確認  研究評価 		 